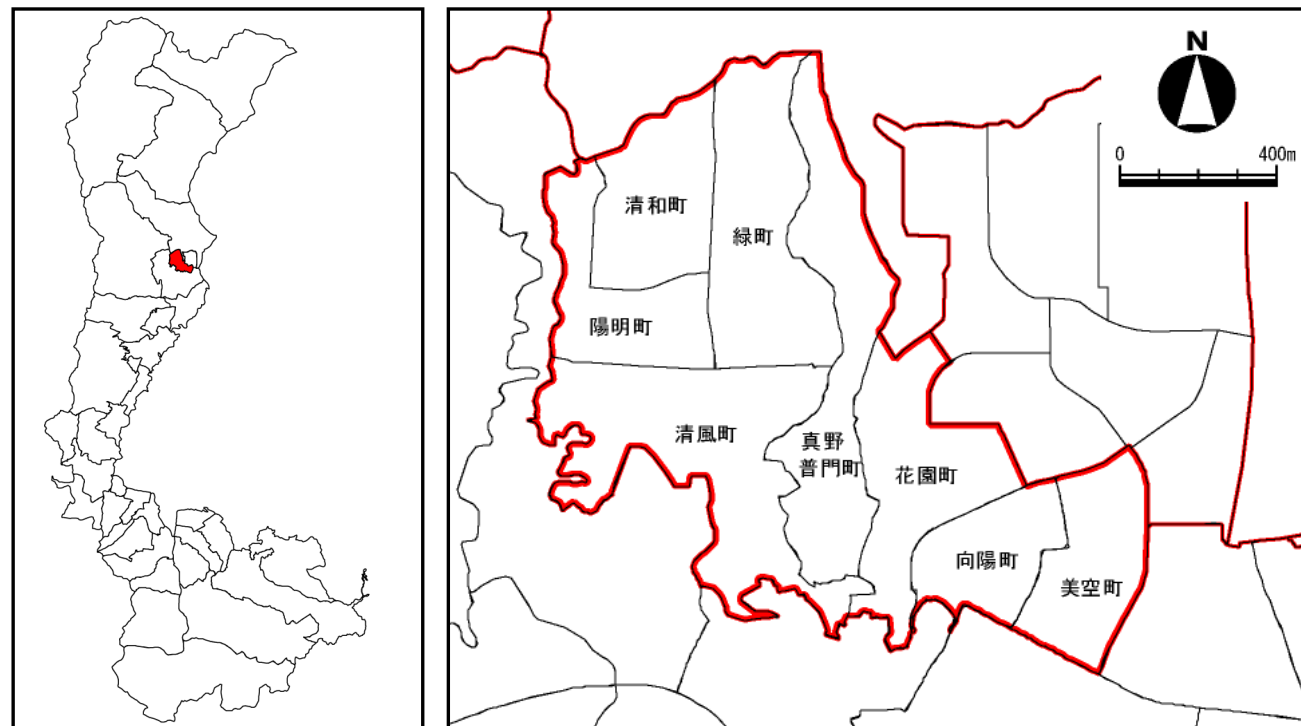


■ 学区の概況



<町丁名>

向陽町、美空町、花園町、清風町、陽明町、清和町、緑町、真野普門町

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

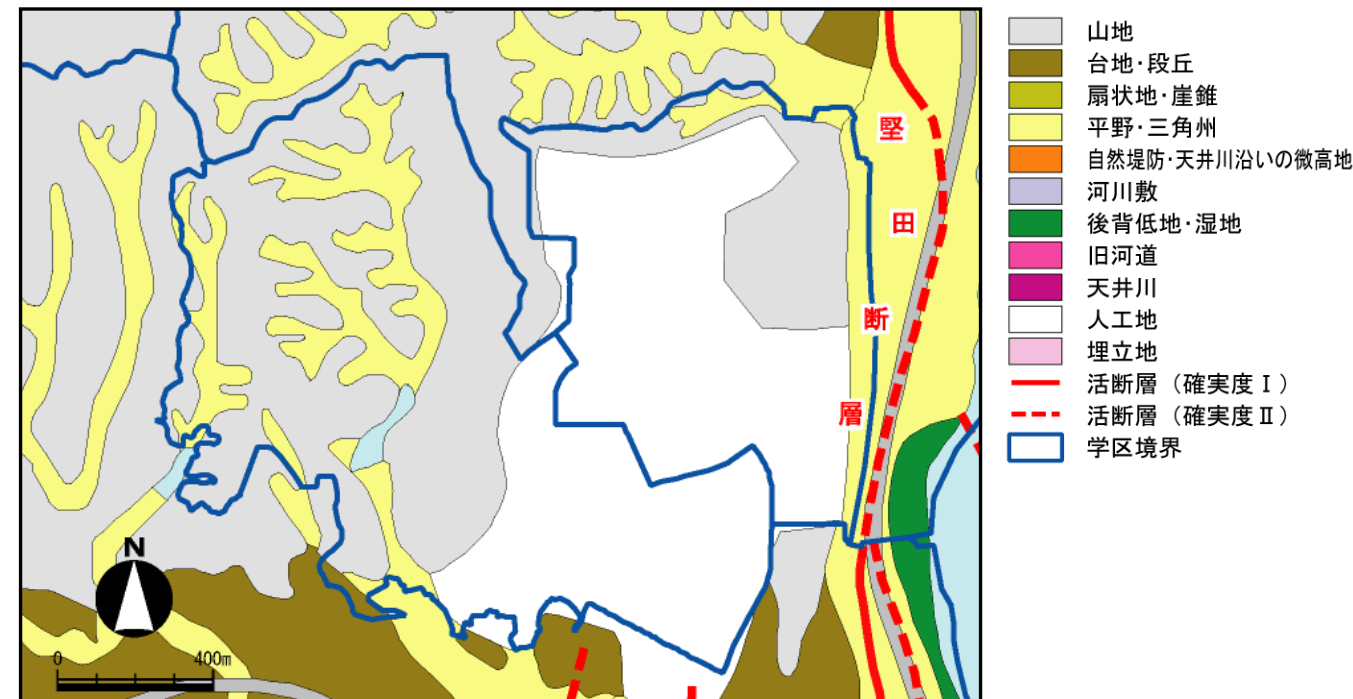
<学区の特徴>

真野北学区は真野地域に開発された住宅地である「ローズタウン」が平成6年4月に真野学区から独立したもので、新しい建物、景観、文化が築かれていく地域である。

地区の中央には曼陀羅山があり、かつての湖西の豪族和邇氏一族の真野氏と関連深いとされる古墳群が存在する。

低くならかな丘陵の間に多くの谷が入り込んで平地をつくり、里山と水田が織りなす景観は日本の里山の風景を代表する一つであったが、近年では開発により旧来の景色が残されているところは少なくなっている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 真野北地域の大部分は堅田丘陵に相当するが、全体的に土地が改変され学区の東部に人工地が広がっている。
- 地域中央には曼陀羅山が位置している。曼陀羅山は中古生代の地層からなる山地である。
- 丘陵は大規模に人工改変され、自然の地形が失われてきている。

<地質の特徴>

- 堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。これは約100万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

<活断層の特徴>

- この地域の東方では、丘陵と低地の間に堅田断層の北半分が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約13kmの活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) ^(注1)	不燃領域率 (%) ^(注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
真野普門町	-	0.0	-	-
向陽町	53.4	62.9	66.5	25.2
美空町	6.1	100.0	0.0	0.0
花園町	40.0	73.8	57.7	19.6
清風町	55.8	83.9	51.0	0.0
陽明町	57.7	75.3	47.7	0.0
清和町	55.1	64.8	54.2	0.0
緑町	55.3	69.6	58.5	0.0
学区平均	46.2	78.5	54.2	5.6
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は46.2戸/haで市平均(全学区の平均)59.3戸/haより低い。
- 不燃領域率の学区平均は78.5%で市平均の93.9%より低い。
- 木造率は、向陽町が66.5%で最も高く、美空町が0.0%で最も低い。学区平均は54.2%で市平均の72.7%を大きく下回る。
- 旧耐震木造建物割合は、向陽町が25.2%で最も高く、美空町、清風町、陽明町、清和町、緑町が0.0%で最も低い。清風町、陽明町、清和町、緑町の木造建物は、すべて新しい耐震基準に基づいて建築されたものである。学区平均は5.6%で市平均の40.3%を大きく下回る。
- 木造率の学区平均、旧耐震木造建物割合の学区平均とも市内で最も低い。

■ 人口の状況

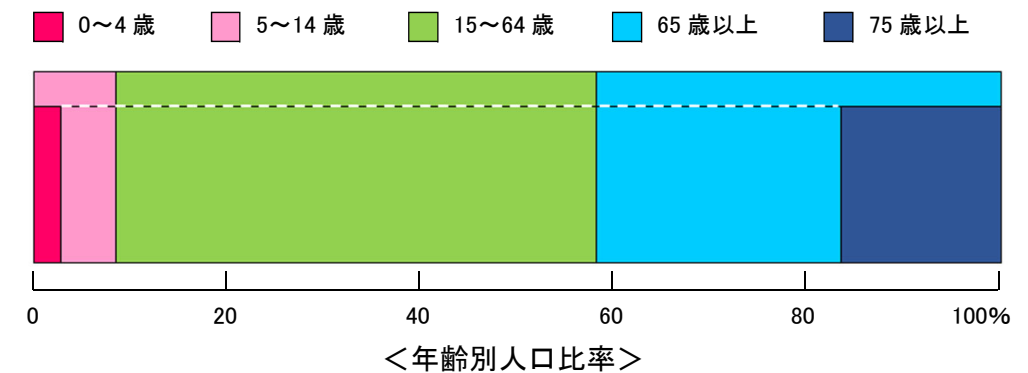
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	6,058	人		-	1
年齢別 (0~4歳)	164	人	学区人口に対する割合	2.7	1
年齢別 (5~14歳)	349	人	学区人口に対する割合	5.8	1
年齢別 (15~64歳)	3,006	人	学区人口に対する割合	49.6	1
年齢別 (65歳以上)	2,539	人	学区人口に対する割合	41.9	1
年齢別 (75歳以上)	1,003	人	学区人口に対する割合	16.6	1
世帯数	2,862	世帯		-	2
1世帯当たり人口	2.1	人/世帯		-	2
要介護認定者	406	人	学区人口に対する割合	6.7	3
身体障害者 (要配慮者)	97	人	学区人口に対する割合	1.6	4
知的障害者 (要配慮者)	17	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	51	人	学区人口に対する割合	0.8	5

(注) 1世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30現在)、4: 大津市データ (R4.3.31現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 高齢者 (65歳以上) は2539人、乳幼児 (0~4歳) は164人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ41.9%、2.7%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は406人 (6.7%)、身体障害者 (要配慮者) は97人 (1.6%)、知的障害者 (要配慮者) は17人 (0.3%) である。
- 外国人居住者は51人 (0.8%) である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <small>(注1)</small>	4 箇所	1
土石流危険渓流 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	11 箇所	2
土砂災害警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	16 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <small>(注1)</small>	1 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） <small>(注1)</small>	0 箇所	3
雪崩危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
浸水想定区域 <small>(注3)</small> (0.0m~0.5m)	0 m ²	6
(0.5m~1.0m)	0 m ²	6
(1.0m~2.0m)	0 m ²	6
(2.0m~)	0 m ²	6
特に重要な水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
重要水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <small>(注1)</small>	1 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）
 3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）
 6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
 7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- この学区は大部分が人工地であり、防災上注意の必要な危険箇所の指定部は比較的少ないが、一部急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている斜面があるため、注意が必要である。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 学区内に活断層は分布していないが、学区の南東方には堅田断層が分布している。特に学区東部は、堅田断層の延長上に位置するため、この断層が直接活動した場合には、大きな地表変位が生じる可能性も考えられる。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地	
		土砂	洪水	地震	火災		
指定緊急避難場所	真野北市民センター前広場	○	○	○		緑町 4-1	
	真野北小学校グラウンド	○	○	○		緑町 15-2	
	真野中学校グラウンド	○	○	○		清風町 24-1	
	伊香立・真野北幼稚園グラウンド	○	○	○		緑町 16-2	
	麗湖こども園グラウンド	○	○	○		花園町 13-36	
	花園児童公園	○	○	○		花園町 13	
	まんだら公園	○	○	○		清風町 6	
	陽明公園	○	○	○		陽明町 6	
	清和公園	○	○	○		清和町 16	
	みどり公園	○	○	○		緑町 16	
	びわ湖美空団地一帯（向陽公園含む）	○	○	○	○	美空町	
	指定緊急避難場所 兼 指定避難所	真野北市民センター	○	○	○		緑町 4-1
		真野北小学校体育館	○	○	○		緑町 15-2
真野中学校体育館		○	○	○		清風町 24-1	
伊香立・真野北幼稚園			○	○		緑町 16-2	
真野保育園		○	○	○		向陽町 4-2	
麗湖こども園		○	○	○		花園町 13-36	
指定避難所	真野中学校武道場					清風町 24-1	

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
真野北市民センター	緑町 4-1	574-3211

<警察 110>

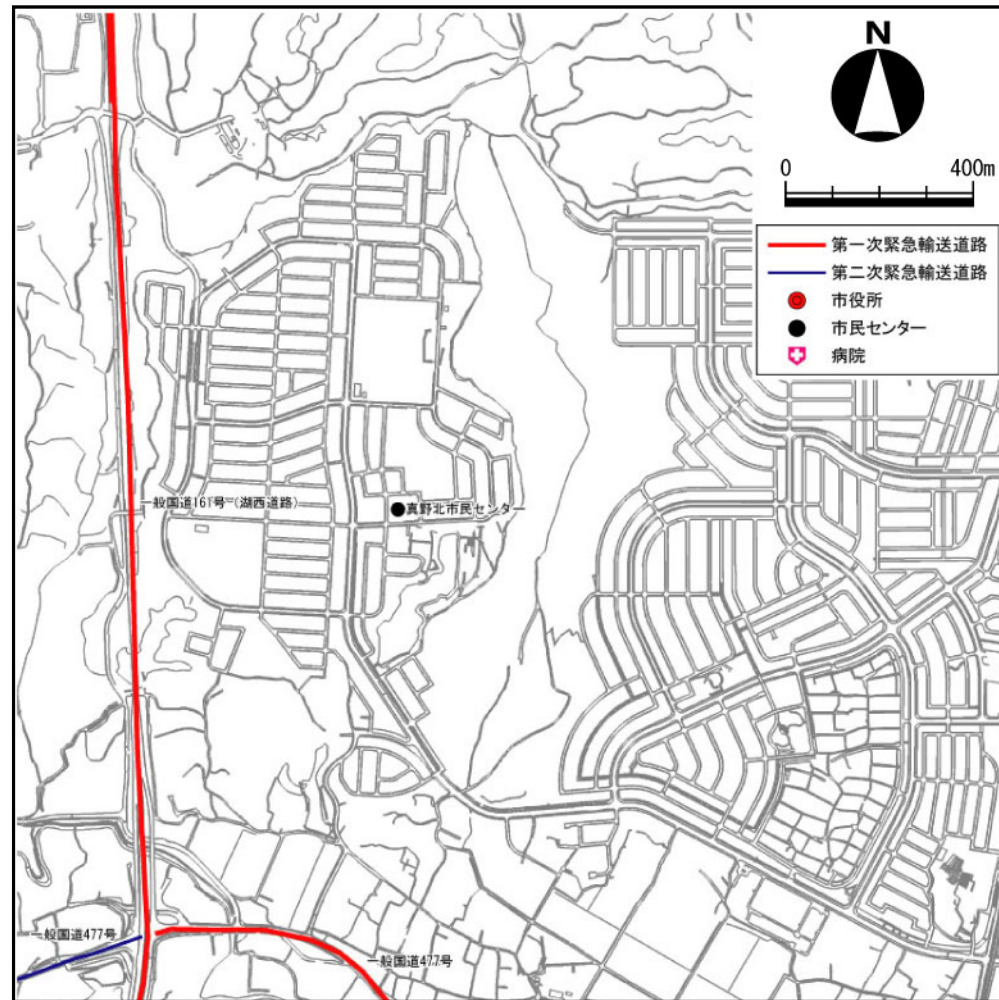
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津北警察署	真野二丁目 20-23	573-1234

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
北消防署	真野二丁目 23-1	572-0119
真野北分団	緑町 4-2	573-8345



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	2,044	8,388	808	466	1,041	37	15	22	84	35	49	4	2	2
ケース2	2,044	8,388	812	462	1,043	37	15	22	84	35	49	4	2	2
ケース3	2,044	8,388	576	474	813	15	7	9	106	43	63	5	2	3

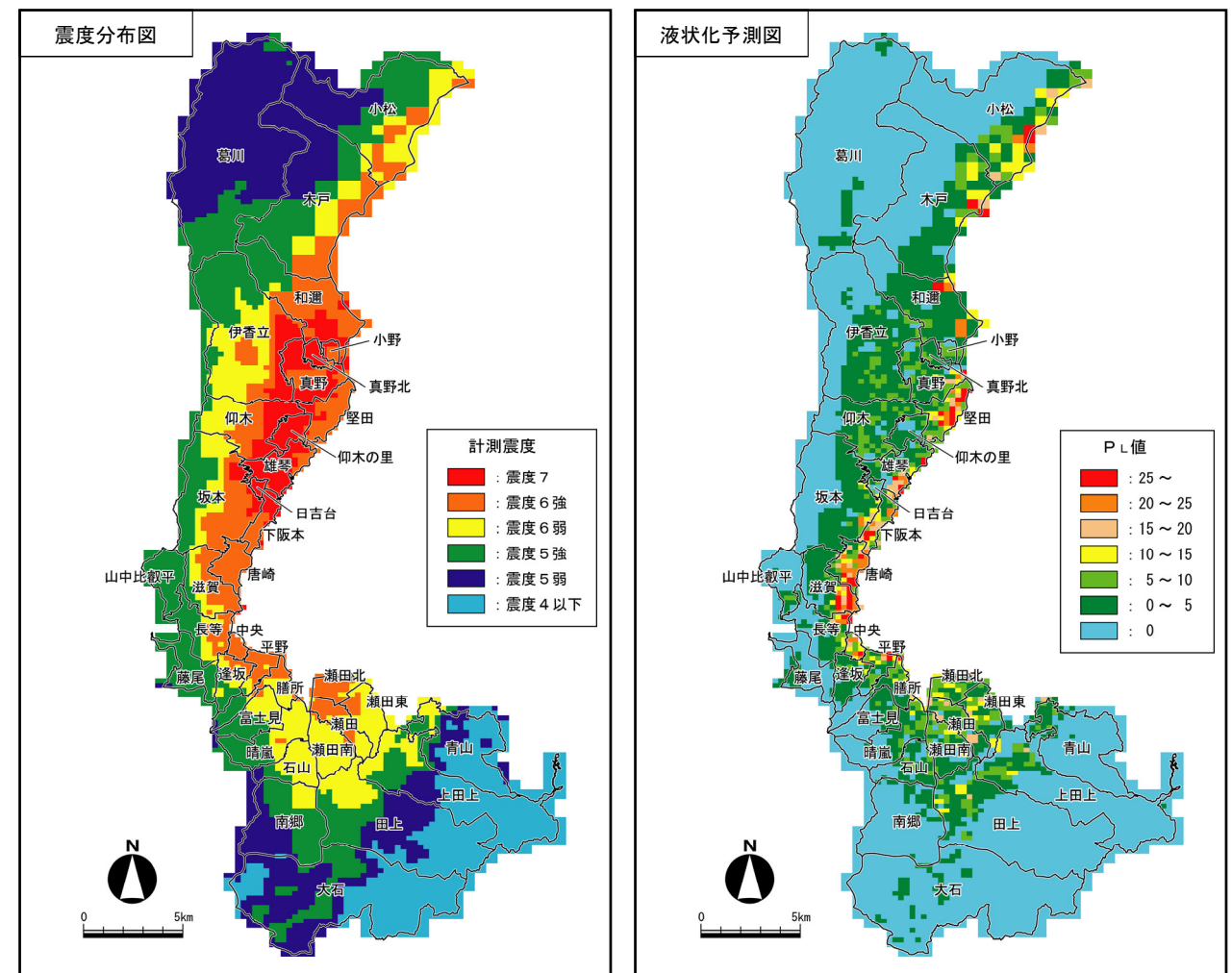
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	2	3	1,584
ケース2	1	2	3	1,585
ケース3	1	1	2	1,208

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

